

いわて 復興 だより

がんばろう!岩手 つなごろう!岩手
第177号
令和3年9月号



三陸復興

平成23年3月11日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切に、復興のステージを更に前に進めていく岩手県の今を紹介します。

開催

第30回岩手県東日本大震災津波復興委員会開催

岩手全域
ALL IWATE

令和3年9月15日(水)、第30回岩手県東日本大震災津波復興委員会が、新型コロナウイルス感染予防のため、オンライン会議により開催されました。

委員会では、震災10年を経過して、これまでの取組と今後の課題・対応方向等をまとめた「いわて復興レポート2021(案)」を議題に、活発に議論しました。

委員からは、「人口減少の分析や対応方向性についての周知」や「子育て中や若年層の方の声の更なる把握」、「被災者の心の健康への長期的な支援」、「孤立住民への

官民連携での対応」といった意見が寄せられました。

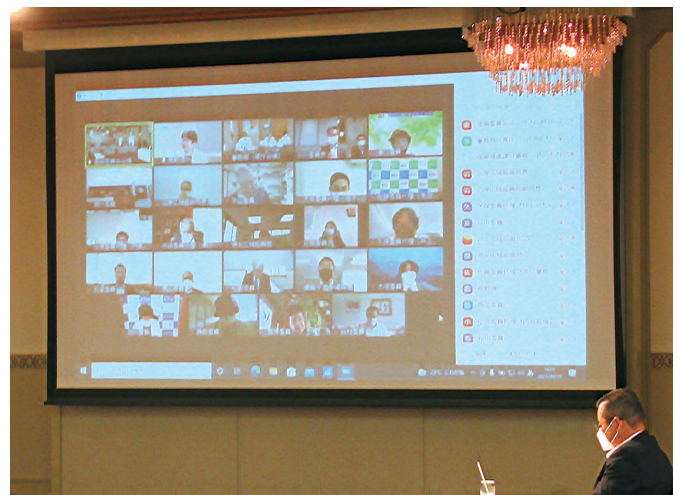
知事からは、「課題の所在を把握し克服していくことで誰一人取り残すことなく復興を進めていく」とコメントがあり、県では引き続き委員の方々のご意見を踏まえ復興に取り組んでまいります。

今回の意見を反映した、いわて復興レポートは9月30日(木)にホームページ上で公開しています。

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課
☎ 019-629-6935



コメントを述べる達増知事



オンライン参加の様子

いわて復興インデックス更新

岩手県では、沿岸被災12市町村をはじめとした本県の復興の現状や進捗状況を分かりやすくお伝えする「いわて復興インデックス」を3か月に1回(年4回)更新しています。今回は、令和3年6月末を基準日とし、8月30日(月)に更新しました。

インデックスには、県内の復興道路の整備状況やいわて被災者支援センターの相談状況、主な経済指標など掲載しています。

詳細については、ホームページをご覧ください。

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課

☎ 019-629-6935

ホームページはこちら➡



令和3年 第2回いわて復興ウォッチャー調査

岩手県では、東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、「いわて復興ウォッチャー調査」を実施しています。

この調査は、平成24年から行っており、被災地域に居住や就労している同一の対象者の方々に、半年に1回実施しているもので、被災者の生活の回復や地域経済の回復、災害に強い安全なまちづくりに対するそれぞれの実感について調査するものです。

調査結果については、ホームページをご覧ください。

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課

☎ 019-629-6935

ホームページはこちら➡



開始

大槌町震災伝承プラットフォーム構想スタート

大槌町
OTSUCHI

運営会議の様子(写真提供:大槌町)

大槌町では、年月の経過とともに、震災の経験者が少なくなっても、災害から命を守り続けられるように、町と個人・団体・企業が一体となって震災伝承に取り組む「大槌町震災伝承プラットフォーム構想」がスタートし、令和3年8月19日(木)、第1回運営会議が行われました。

運営会議では、「津波の恐ろしさが一目でわかるモニュメントが欲しい」「震災だけでなく台風など多角的に災害について伝承していく必要がある」などの意見が出ました。

今後は、「震災の語り部」や「震災伝承の場」、「震災学習」の3つのテーマについてワーキンググループを開催し、10年、20年先の次世代に震災伝承を文化として伝えられるよう活動していきます。

■問い合わせ 大槌町協働地域づくり推進課
☎ 0193-42-8718

公開

岩手県避難所マップ公開

岩手全域
ALL IWATE

令和3年8月6日(金)、岩手県はいわて防災情報ポータルサイト上で「岩手県避難所マップ」を公開しました。

マップは、県内の指定避難所や指定緊急避難場所など約3200か所が登録されており、避難所の混雑状況を色で確認できます。また、位置情報を取得することで、現在地に近い順に避難所を表示できるので、日頃から最寄りの避難所や避難経路などを確認できます。災害時の混雑を避け、新型コロナウイルス感染症対策と安全な避難行動にお役立てください。

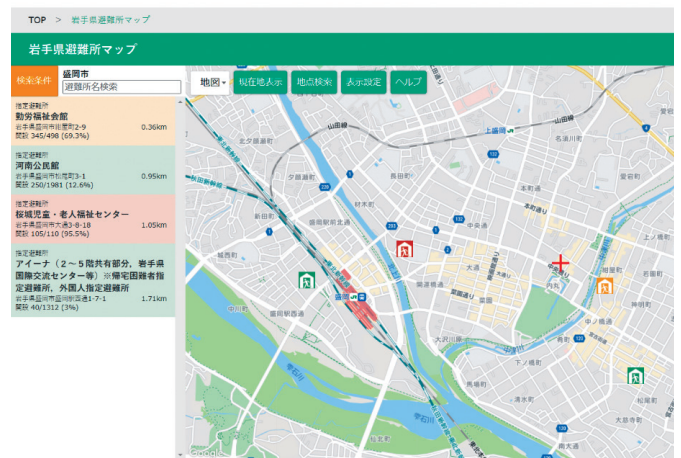
■問い合わせ 岩手県復興防災部防災課

☎ 019-629-5155

ポータルサイトはこちら➡



いわて防災情報ポータル



マップの様子

(灰色:未開設、緑色:収容率60%未満、黄色:90%未満、赤色:90%以上)

世界へ、未来へ いわてTSUNAMIメモリアル

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」(いわてTSUNAMI(つなみ)メモリアル)を紹介します。

令和3年9月22日(水)、東日本大震災津波伝承館は、開館から2周年を迎えました。開館以降、9月21日(火)時点で県内外から40万人を超える方々にご来館いただきました。

伝承館は、8月13日(金)から9月17日(金)まで、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により休館していましたが、その間、伝承館の来館者をサポートする10名の解説員は、自主学習や研修に励みました。

休館中に実施した「沿岸市町村伝達研修」では、解説員ごとに担当する市町村を決め、各自で担当市町村の特徴や復興事業の進捗状況、関連する伝承館の展示などについて調査や意見交換等を行い、解説員同士で被災・復興状況の理解を深めました。

東日本大震災津波伝承館では、今後も来館者の方々が安心・安全に見学できるように感染症対策を徹底しながら、研修会等を通じて得た学びを基に、来館者の方々が自助・共助・公助、それぞれの視点で、学びや気づきが得られるよう、震災津波の事実と教訓を伝えていきます。ぜひ、ご来館ください。

■問い合わせ 東日本大震災津波伝承館
☎ 0192-47-4455



解説員の研修の様子

公開

岬のマヨイガ公開

全国
ALL AREA

令和3年8月27日(金)、岩手県沿岸を舞台のモデルとしたアニメーション映画「岬のマヨイガ」が全国公開されました。

本県在住の作家、柏葉幸子氏の児童文学作品が原作になっており、2人の少女と不思議なおばあさんの共同生活を描かれた温かい物語です。岩手の美しい自然を背景に、マヨイガやカッパなどの妖怪がたくさん出てくるのも、見どころです。

映画の公開に合わせて、三陸鉄道では車内を映画の画像で装飾した特別列車が運行されました。大槌町と遠野市では、限定商品の販売や舞台探訪マップの公開などを行いました。



■問い合わせ 岩手県文化スポーツ部文化振興課
☎ 019-629-6286

開催

LINKtopos2021 in IWATE
(令和3年度全国公立大学学生大会)開催全国
ALL AREA

令和3年9月15日(水)と16日(木)の2日間、全国の公立大学生によって組織される「公立大学学生ネットワーク」の主催で、LINKtopos(リンクトポス)2021 in IWATE(令和3年度全国公立大学学生大会)がオンライン開催され、約150名が参加しました。

岩手県立大学など全国の公立大学の生徒が参加したLINKtopos(リンクトポス)は、講演を聴き、それをもとに自分たちができることをグループに分かれて考えるワークショップ形式で実施されました。

まず、全体で語り部活動などの伝承活動や震災時と復興時の生活についての講演があり、次に三陸鉄道の震災学習列車の取組や災害時の配慮、ケアなどについてグループに分かれて事例紹介がありました。その後、学生は、事前課題と講演などをもとに、ハード面とソフト面の復興や伝承活動について学生ができることを考え、発表し、決意を新たにしました。



ワークショップの様子
(写真提供:一般社団法人公立大学協会)

■問い合わせ 一般社団法人公立大学協会
☎ 03-3501-3336
公式ホームページはこちら➔



話題

大船渡市魚市場で
サンマ初水揚げ大船渡市
OFUNATO

令和3年8月28日(土)、大船渡市魚市場で、本州トップを切ってサンマが初水揚げされました。

初めての水揚げ量は、昨年の4トンを大幅に上回る36トンで、東日本大震災津波以降では2番目に多い水揚げ量でした。

魚市場関係者は、「今年も地元船での8月中の初水揚げがあり、船主さんや船頭さんへの感謝しかない。これから厳しい予想をくつつがえす量になることを願うばかり」と話し、魚市場は初水揚げで活気にあふれました。



初水揚げの様子(写真提供:大船渡市)

■問い合わせ 大船渡市水産課 ☎ 0192-27-3111

オープン

イーガストすみた
プレオープン住田町
SUMITA

販売所の様子(写真提供:イーガストすみた)

令和3年8月29日(日)、住田町で特産品販売センター「イーガストすみた」がプレオープンしました。

名前のイーガストは、気仙弁で「いいじゃないの」を意味する「いいがすと」から来ており、住田や関係地域のいいものを集めて売ること、多くの人からいいねを獲得したいという思いが込められています。

イーガストすみたでは、町特産品のありすぽーくや鶏ハラミ、町内・周辺地域の農産物やお菓子類などが販売されており、販売所のほかには観光情報コーナーとベビーケアコーナー等もあります。地域の方々、地場産品を中心とした住田町の発信拠点のオープンを喜びました。

■問い合わせ イーガストすみた ☎ 0192-47-5666



二度と散らない ねがい桜

東日本大震災津波の御霊を祀り、震災の伝承を行っています。



平成25年から、陸前高田商工会女性部が中心となって、東日本大震災津波で亡くなられた方々と行方不明の方々18,430名の御霊を祀るために、悲しみを繰り返さないようにと願いを込めた「二度と散ることのない布製の「ねがい桜」」を地元の古くからの寺社である普門寺に奉納してきました。

本堂に奉納されているねがい桜は、令和元年4月24日に、「つるし飾り」としてギネス世界記録に認定され、令和3年7月には震災遺構に登録となり、震災の伝承と観光振興に活用されています。

現在では、ねがい桜の観覧だけでなく、願いや思いをねがい文に書き、ねがい桜の中に入れ、奉納することもできます。

- 場所** 岩手県陸前高田市米崎町字地竹沢 181 普門寺
- 時間** 午前8:00～午後5:00
- 問い合わせ** 陸前高田商工会女性部 ☎0192-55-3300



普門寺外観 (写真提供: 普門寺)



二度と散らないねがい桜 (写真提供: 陸前高田商工会女性部)



陸前高田市★

いわてさんりくびと

連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々を紹介しします。第123回は安藤あさひさんをご紹介します。



～ 何度でも生まれ変わる ～

PROFILE

東京都出身、青森県八戸市育ち。短期大学卒業後、東京都や青森県で様々な仕事を経験し、平成30年度から洋野町地域おこし協力隊の一員として活動。令和3年6月に洋野町発の陶器のお店「Akaland(アカランド)」を開業し、ウニ殻の釉薬を使った陶器などを販売。

海辺の光景がきっかけに

安藤あさひさんは、東京都や青森県で働いた後、祖父母が暮らす町という縁もあり、洋野町の盛り上げに貢献したいと思い、地域おこし協力隊に応募しました。平成30年度に協力隊に着任し、最初は洋野町大野でグリーンツーリズムの受け入れなどを担当しました。その時、おおのキャンパスでの研修の一環として陶芸を経験し、自分の手でゼロからかたちを生み出す面白さを知ったと安藤さんは言います。

2年目からは、種市で観光振興に取り組むことになりました。『みちのく潮風トレイル』のコースを自分で歩いてみた時に、景色がきれいで気持ち良いのに、プラスチックなどのゴミがたくさん落ちていることに気付いた安藤さんは、それらを極力使わないお

土産を作りたいと思いました。その思いと、大野での陶芸体験が結びつき、洋野町のお土産として、ウニをモチーフにしたトゲトゲ付きの陶器を開発しました。商品は評判を呼び、新東北土産コンテストにも入賞しました。

捨てるのではなく、生かす

協力隊の任期終了後、令和3年6月に陶器のお店「Akaland(アカランド)」を開業し、現在はネット販売を中心に陶器の茶碗や豆皿を販売しています。新作にも取り組み、ウニ殻を釉薬として使った「暁空(あから)焼」も誕生しました。

「これまで捨てられていたウニ殻を釉薬として使うことで、捨てられる存在から、人の喜ぶ作品に変えることができます。『生まれ変わる』をコンセプトに、これからも取り組んでいきたいです」と、安藤さんは語ります。

岩手県の被害状況

令和3年8月31日現在

- 人的被害 死者：5,145人(余震、震災関連死を含む)
行方不明者：1,111人
- 建物被害(住家のみ、全半壊)26,079棟
被害状況等の詳細/義援金・寄附金の募集等

いわて防災情報ポータル

検索

皆様のご支援、ありがとうございます

令和3年8月31日現在

- 義援金受付状況 約188億466万円(98,250件)
- 寄附金受付状況 約202億5483万円(11,157件)
- いわての学び希望基金(*)受付状況 約103億7,102万円(25,852件)
※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



いわて震災津波アーカイブ～希望～

約24万点の資料を検索・閲覧できます。

いわて震災津波アーカイブ

検索



いわて復興だより 第177号

令和3年9月30日発行 企画・発行/岩手県復興防災部復興推進課 ☎019-629-6945 編集・印刷/永代印刷株式会社